

配布資料 講話2. ミサをともにささげるわたしたちという存在

1. ミサをともにささげるわたしたちはどういう存在か

叙唱を全員でゆっくりと声をだして読んでみましょう。

叙唱 年間主日一 一神の民一

聖なる父、全能永遠の神、いつでも主・キリストによって賛美と感謝をささげることは、まことにとうといたいせつな務めです。

主・キリストは過越の神秘によって偉大なわざをなしとげられ、わたしたちを罪と死のくびきから栄光にお召しになりました。

わたしたちはいま、選ばれた種族、神に仕える祭司、神聖な民族、あがなわれた国民と呼ばれ、やみから光へ移してくださったあなたの力を世界に告げ知らせます。

神の威光をあがめ、権能を敬うすべての天使とともに、わたしたちもあなたの栄光を終わりになくほめ歌います。

2. 叙唱年間主日一を通してみる、ミサを共に捧げる私たちという「存在」

○叙唱の構造

叙唱において思いおこされる神の御業
(私たちに天の御父がしてくださったこと)

主・キリストは過越の神秘によって偉大なわざをなしとげられ、わたしたちを罪と死のくびきから栄光にお召しになりました。



神の御業のおかげで私たちはどうなった？

わたしたちはいま、選ばれた種族、神に仕える祭司、神聖な民族、あがなわれた国民と呼ばれ、やみから光へ移してくださったあなたの力を世界に告げ知らせます。

叙唱において思いおこされる神の御業
(私たちに天の御父がしてくださったこと)

主・キリストは過越の神秘によって偉大なわざをなしとげられ、わたしたちを罪と死のくびきから栄光にお召しになりました。

- キリストは十字架上の死と復活をとおして、私たちが罪から解放し、新しいいのちへの道をひらかれた。新しいいのちとは、まず私たちが義とすること、つまり神の恵みの中に私たちを連れ戻すことであり、恵みによってキリストの兄弟、神の養子とされること。(カテキズム 654)

神の御業のおかげで私たちはどうなった？

わたしたちはいま、選ばれた種族、神に仕える祭司、神聖な民族、あがなわれた国民と呼ばれ、やみから光へ移してくださったあなたの力を世界に告げ知らせます。

- ペトロの手紙一 2 章 9 節

「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。」

- 選ばれた種族(民)

イザヤ書 43 章 20-21 節にある「わたしの選んだ民」が引用される。民の原語「ゲノス」は同一先祖からでた子孫、一族、部族、民族、種類をさす。教会は洗礼を通じて新たに生まれた者たちが構成する神の家族であり、キリスト者共同体が真のイスラエルであることを表す。

- 神に仕える祭司 → 王の系統を引く祭司

王であり大祭司であるキリストに属する教会は王の系統を引く祭司の集団であり、私たちは大祭司キリストをかしらとして神に仕える祭司の集団である。

○神聖な民族 → 聖なる国民

出エジプト記 19 章 6 節「あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる」の引用。諸国民の中にあつて神のために神によって聖別された民。教会は神に仕えるために神によって選ばれ、神の霊によって支えられている故に聖なる集団、民族、民である。

○あがなわれた国民 → 神のものとなった民

申命記 7 章 6 節「主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。」などを踏まえている。叙唱において、「あがなわれた国民」としているのは、キリストの過越の神秘によって、神が私たちが罪と死のくびきから「贖い」、洗礼を通じて特にご自分のもの(民)とされたことを強調している。

ヨハネの黙示録 5 章 9-10 節

「あらゆる種族と言葉の違う民、／あらゆる民族と国民の中から、／御自分の血で、神のために人々を贖われ、／彼らをわたしたちの神に仕える王、／また、祭司となさったからです。」

○やみから光へ移して下さったあなたの力を世界に告げ知らせます。

神の力ある御業は、私たちにとってはキリストの十字架の死と復活による新生の出来事であり、「私たちが告げ知らせる(広く伝える)」には、礼拝によって公に示すという意味がこめられており、霊的な家で捧げる礼拝、特にミサにおける感謝賛美のいけにえ、教会がミサを通して自らを奉献する行為が神の力ある業の宣言であるという初代教会の理解がこめられている。

3. まとめ ミサを共に捧げる私たちという「存在」とは

私たちは、天の御父のみ旨によってキリストの十字架上の死と復活を通して、罪と死のくびきから贖われた。贖われた(買い戻された)ということは、私たちは神のものである。そして単に贖われただけでなく、神の養子とされるほどの身の上を与えられた。

私たちは神の選びによって、キリストと出会い、洗礼によってキリストをとおして天の御父が与えられた救いの御業を受け入れ、恵みのうちに生きること

よって聖別された民となり、キリストとともに自らをささげることによってキリストとともに世界をとりなす祭司となった。

私たち一人ひとりが祭司的民であり、その集まりが教会であり、その教会がキリストをかしらとして神の救いの業を感謝し、記念し、祝い、さらにキリスト自らが私たちの霊的な糧となり三位一体の神と一つに交わることに招かれるほど恵みのうちにあることを私たちはよく自覚する必要がある。

以上

(参考ペトロの手紙一 2章3節-10節)

あなたがたは、主が恵み深い方だということを感じました。
この主のもとに来なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。

あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となって神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい。聖書にこう書いてあるからです。

「見よ、わたしは、選ばれた尊いかなめ石を、
シオンに置く。

これを信じる者は、決して失望することはない。」

従って、この石は、信じているあなたがたには掛けがえのないものですが、
信じない者たちにとっては、

「家を建てる者の捨てた石、
これが隅の親石となった」

のであり、また、

「つまずきの石、
妨げの岩」

なのです。彼らは御言葉を信じないのでつまずきののですが、実は、そうなるように以前から定められているのです。

しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。あなたがたは、

「かつては神の民ではなかったが、
今は神の民であり、
憐れみを受けなかったが、
今は憐れみを受けている」

のです。